

## 16. 鎌

日本農村医学会が実施した2012年の全国調査では、農機外事故の24.5%を鎌で占めていた。今回の対面調査で2事例のみであるが、事故の多い用具であるので、鎌の形状、鎌の使い方、鎌を使っている環境など、さらに事例を積み上げ、共通課題を明確にする必要があると考えられる。単に「もうちょっと、注意すればよかった」ではなく、科学的な説明が必要である。

### ①コンバインが最初進入して、倒れた稲をコンバインがバックして踏まれる前に稲刈り鎌で刈ろうとして、小指切創 (平成24年 9月 9時頃、水田、女性・63歳)

朝9時半頃、昇降路が左隅にあるに2反歩の圃場で、コンバインの右側を畦際に寄せるため、最初、昇降路を斜めに降りて刈り入れた。4条刈りの全面刈りのコンバインではあったが、少し踏んだ稲があった。コンバインは、次に再度バックして斜め刈りをする予定であった。

奥さんが、次にバックした時、倒れた稲を踏むと思い、持っていた鎌で急いで倒れた稲を刈った。軍手をしていない。その時、急いでいて、左小指を切った。

鎌は、刃の長さが16cm、刃の幅が広いところが2.8cm、柄の太さ2.5cm、長さ20cm、グリップの下9cmには滑り止めが着いている。毎年2本新調し、1本700円。小ぶりで大変扱いやすいノギリ鎌ではある。

自分で家に帰り、車に乗って近医受診、5~8針縫った。翌日も通院、計9回、約20日間通院。6日目に抜糸、再度化膿止めをもらう。現在も、手が当たると痛む。傷も完治していない。傷の長さ2.5cm。



### \* 事故原因

とにかく、コンバインがバックするまでに急いで刈ろうとした。稲を刈る方向も刃を下向きではなく、上向きに刈っており、刃が小指に当たった。

この稲刈り中の左小指の切創は、典型的な怪我であり、多くの人が経験している。その点では、稲刈り中、左小指を違和感なく守る手袋などが開発されてもいいと思われる。



## ②畑で春菊を収穫し、春菊の根元を鎌で切ろうとして指を切った

(平成24年 6月 9時頃、水田、女性・78歳)

朝 9 時頃、自宅から 500m ぐらい離れた畑に出かけ春菊を収穫した。春菊を取って立ち上がり、春菊の根元をきれいにしようと、左手に春菊を持ち、右手に持った鎌を上から降り降ろしたところ、手が狂い、えぐるように左手の人差し指の第 2 関節部分を約 4 cm 切った。骨までいなくて良かった。

娘が午後来ることになっていたことと、主人からも早く収穫してその後耕したいと言われており、少し焦っていた。鎌は良く切れることで自慢の逸品。刃渡り 19 cm、幅は現在 2.7 cm (本来は約 3.5 cm はあった)、持ち手は 36 cm、直径 2.8 cm、手元は 2.5 cm。友人から進められ、地元の金物屋から購入したもので気に入っている。手入れが行き届いており、ぴかぴかに光っていた。

天候は晴れ、服装はエプロン、女性用帽子、地下足袋、いつもはしている手袋をこのときに限ってしていなかった。

手拭いを裂いて指に巻いて帰った。ご主人に運転してもらい、近くの病院まで送ってもらった。病院では日曜日の担当であった女医さんが心配して、血が止まるまで約 1 時間指を押さえていてくれた。しばらく病院にいてほしいといわれた。止血して包帯をしてもらい家に帰った。左人差し指切創。翌日、病院の外科で縫ってもらった。翌日から毎日通院、その後は 2~3 日ごとに通った。抜糸は 1 週間後。治療期間は約 1 か月。

### \* 事故原因

いつもはするはずの手袋を、その日に限ってしなかった、上の空の状態だった。なお、いつもは軍手だが、最近は「ぴったりくん」にしている。

